

普遍的句構造型と中国語の構成素構造

馮 蘊 澤

概 要

1. はじめに
2. 「普遍的句構造型」
 - 2.1 英語の「模範的事実」
 - 2.2 日本語の分析と事実
3. 不都合な中国語の真実
 - 3.1 類似しない句構造
 - 3.2 述語、目的語は同一の構成素にあらず
4. 中国語の構成素構造
 - 4.1 直接構成素としての主語、目的語
 - 4.2 下位構成素としての定語
5. 状語と補語
 - 5.1 直接構成素としての状語、補語
 - 5.2 再び「述語+目的語」構成素について
6. おわりに

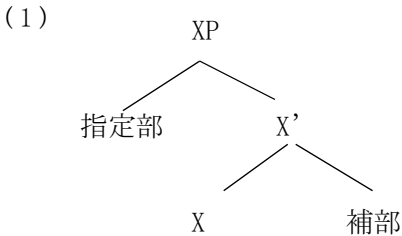
1. はじめに

本論は中国語の事実を精査し、いわゆる「普遍的句構造型」の「普遍性」について考える。

現在の言語学は、個別言語の事実とともに、言語の普遍的特徴についても大きな関心を寄せている。こと構成素構造（あるいは句構造）に関しては、構造的、構造の階層性をはじめ、構成素構造の類似性、普遍性などが広く論じられている。こうした普遍的特徴が「普遍的句構造型」として集約され、ある意味では一種の固定観念となつて、場合によっては十分な検証がないままさまざまな言語の句構造表示に用いられている現状さえある。他方、一部の「主要言語」の事実に基づいて打ち出されたこうした「普遍性の特徴」に対して、中国語はしばしば「不都合」な事実を見せる。本論は中国語の事実を精査し、いわゆる普遍的句構造型の「普遍性」に対する疑問を呈示し、普遍的句構造型から見て極めて例外的な中国語の句構造の真実を明らかにする。

2. 「普遍的句構造型」

生成言語学で代表される近代の言語学理論の目標の一つは、個別言語の垣根を越えて、言語の普遍的特徴の追求にあるといえる。こうしたなかで提案される言語の普遍的特徴の1つに「普遍的句構造型」がある。普遍的句構造型とは、概略的には次のように示すことができる。(X = 主要部)



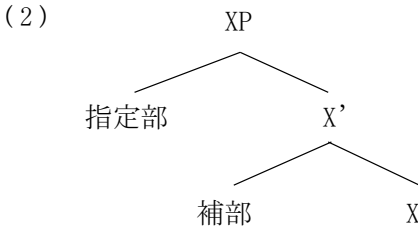
上記の普遍的句構造型について、以下のいくつか留意すべき点がある。

- I. 主要部と補部の関係は主要部と指定部の関係より緊密である。
- II. 句の内部構造（つまり主要部と補部の配置）は、その範疇（NP、

VP、・・・) の如何を問わず、極めて類似している。(故にS、VP、NPなどの範疇記号に代わって、X、XPを用いる。)

Ⅲ. 上記Ⅰ、Ⅱの特徴は単に英語にのみ当てはまるのではなく、人間言語すべてに当てはまる。

なお、主要部と補部の配置については2つの選択肢があるとして、上記の主要部先行型以外に、次のような主要部後続型もあるという。



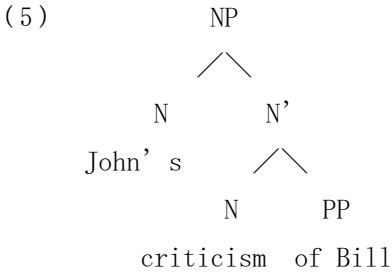
2.1 英語の「模範的事実」

普遍的句構造型は英語の事実によって支持されているようである。次は、英語のNPの構造表示の例である。(井上和子・原田かづ子・阿部泰明1999)。この例では、Billはcriticismの修飾語で、John'sはさらに [criticism of Bill] 全体の修飾語である。また、線形順序として、(3) に対して、(4) のような配置が許されない。

(3) John's criticism of Bill.

(4) * Criticism John's of Bill

従って、当該NPは階層構造で、(5) のように示される。

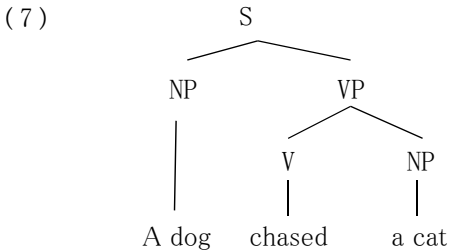


よって、英語のNPでは、主要部と補部の関係がより緊密で、且つ、主要部先行型であることが分かる。

次は英語のVPについての観察である。柴谷、影山、田守1982は次のように、述語と目的語の間に挿入語句が許されない事実を指摘している。

- (6) a. A dog, John said, chased a cat.
b. *A, John said, dog chased a cat.
c. *A dog chased, John said, a cat.

これらの事実は、英語では述語動詞と目的語を切り離すことができず、両者が一つの構成素単位を構成していることを示すものである。このような事実を反映して、英語の構成素構造は通常、次のように表示される。

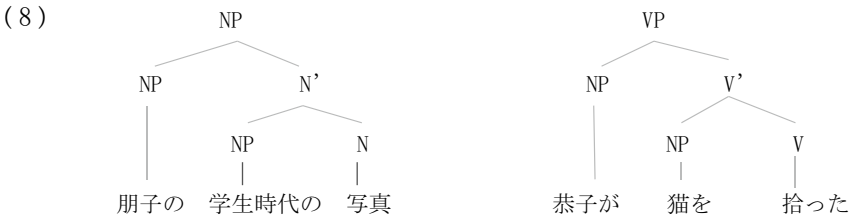


従って、英語のVP構造も階層構造で、主要部と補部の関係がより緊密で、主要部先行型である。

ほかに、英語ではIP（屈折要素Inflectional elementを主要部とする句）、AP、PP、CP（補文標識COMPを主要部とする句）などにおいても、主要部と補部が同一の構成素を構成する階層構造で、主要部先行型という、「模範的事実」を示しているという。（井上和子・原田かづ子・阿部泰明1999）

2. 2 日本語の分析と事実

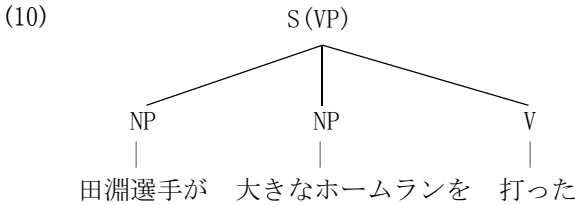
日本語の分析では、NPもVPも主要部と補部が同一の構成素を構成する階層構造で、主要部後続型であるとする認識が一般的である。次は長谷川1999が示している日本語のNPとVPの構造表示である。



上記の分析が正しければ、普遍的句構造型にとってきわめて都合のよい事実となる。ただし、VP（文の構造）について、日本語は英語と大きく事情が違って、述語動詞と目的語名詞の間に挿入語句を許すとする次のような指摘もある。（柴谷・影山・田守1982）

- (9) a. [田淵選手が] ネ [大きなホームランを] ネ [打った] ヨ。
 b. [田淵選手が] [大きなホームランを] 昨日／久しぶりに [打った]。
 c. [大きなホームランを] [田淵選手が] [打った]。

このため、英語と違って、日本語の文構造では、述語動詞と目的語が必ずしも1つの構成素を成しているとは言えず、構成素構造は次のように示されると柴谷・影山・田守1982が主張する。

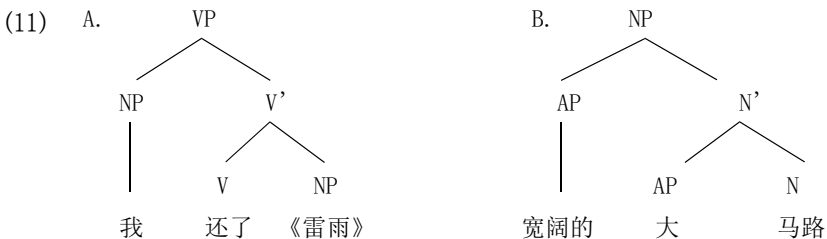


3. 不都合な中国語の真実

3.1 類似しない句構造

上記のような句構造の普遍的特徴に対して、中国語はいくつか不都合な事実を示す。その一つは、「句の内部構造は、その範疇 (NP、VP、・・・) のいかんを問わず、極めて類似している」とは言えない、という事実である。

まず、中国語においても、下位構成素のあいだに親疎関係があるとし、こうした下位構成素の親疎関係に基づいて、VPとNPはそれぞれ次のように分析されることがある。(何2007)



ただし、上記の構造表示で分かるように、VPは主要部先行型であるのに対して、NPは主要部後続型である。つまり、「句の内部構造は、その範疇 (NP、

VP、・・・)の如何を問わず、極めて類似している。」とする普遍的句構造の原理に反して、中国語では、「句の内部構造は、その範疇(NP、VP、・・・)によって同じではない」という、むしろ逆の事実を示している。

3.2 述語、目的語は同一の構成素にあらず

中国語が見せる不都合な事実は上記のVPとNPの不一致だけでなく、そもそも、「述語動詞、目的語同一構成素説」に対しても疑問を投げかけている。次の例が示すように、英語の事情と大きく違って、中国語では述語動詞と目的語の間にさまざまな挿入成分を許す。

(12) John studied Chinese language [for three years].

* John studied [for three years] Chinese language.

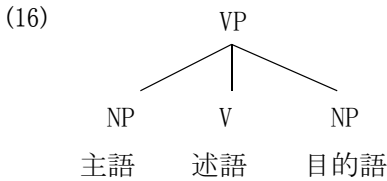
(13) John put a book [on the table].

* John put [on the table] a book.

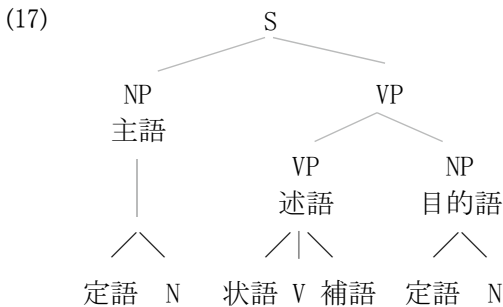
(14) 张三 学过 [三年] 汉语。

(15) 张三 放 [在桌子上] 一本书。

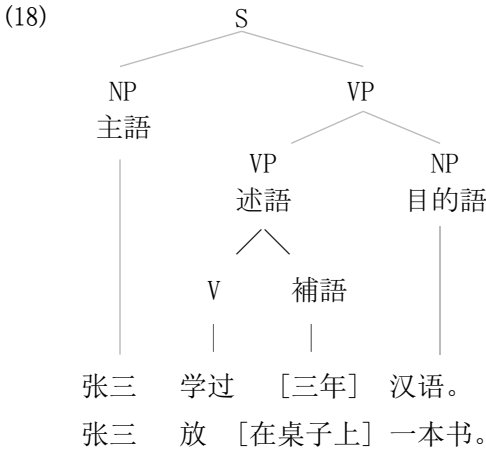
従って、中国語では、英語の事実が示すような、述語と目的語が同一の構成素を構成する根拠は見当たらない。むしろ柴谷、影山、田守1982が主張する日本語のVP構造と同様で、目的語は述語と独立し、独自の構成素を形成していることを示している。このような事実をふまえて、述語と目的語、および主語の構造関係は次のように示さなければならない。



上の疑問に対して、文中の「三年」、「在桌子上」のような成分は「主語」、「述語」、「目的語」と並ぶ文の直接構成素ではなく、「補語」という、述語動詞を主要語とするVPの指定部（修飾成分）として機能する下位構成素であるとして、反論が予想される。実際、学界の「通説観」を反映する現行の大学用教科書、参考書のほとんど（北京大学1993、武1985、林1991）は、VPの直接構成素として主語、述語、目的語の3種類を認め、「定語」を名詞フレーズの指定部（修飾成分）、「状語」、「補語」は動詞フレーズの指定部（修飾成分）または補部として、直接構成素を担うフレーズの構成成分、つまり直接構成素の下位構成素として位置づけられている。上記の考え方を整理して図示すると、次のようになる。



上記のような解釈に従えば、(14)、(15)の文の統語構造表示は次のようになる。



つまり、述語動詞と目的語が同一の構成素単位を形成していることには変わらないとする考え方である。しかし、上記のような解釈には明らかにいくつか問題、ないし矛盾を抱えている。問題の焦点は状語と補語の解釈にある。本論は、構成素が担う意味役割、および形式的特徴から見て、状語と補語は述語、主語、目的語と同様、VP (文) の直接構成素であるとする立場である。この点についてはこの後の第5節で議論することとして、状語、補語についての議論に進む前に、議論の首尾一貫性を図るため、以下の第4節では、述語、主語、目的語は直接構成素であり、定語は下位構成素であるとする理由について今一度整理し、明らかにしたい。

4. 中国語の構成素構造

4.1 直接構成素としての主語、目的語

主語と目的語には、それを担う言語単位が持つ「語彙的意味」以外に、〈動作者〉や〈被動作者〉など、その文ならではの、何らかの「意味役割」の情報を持っている。

(19) 张三 + 推了 + 一把 + 李四。

| | |

<動作者> 動作 <被動作者>

構成素のこうした意味役割は、述語として実現する「事態」の類型との関係を示すもので、あるいは事態との意味関係によって定義されるものである。このため、述語の事態類型によって、同じ統語成分の類型でも、意味役割は同じとは限らない。次の各文のなかで主語を担うのは同じ語彙項目「张三」である。述語動詞として実現する事態の類型によって、主語を担う「张三」の意味役割がそれぞれ違うことが分かる。

(20) 张三 + 推了 + 一把 + 李四。

| | |

<動作者> 動作 <被動作者>

(21) 张三 + 喜欢 + 李四。

| | |

<経験者> 経験 <経験対象>

(22) 张三 + 有 + 一辆 + 跑车。

| | |

<所有者> 所有 <被所有者>

(23) 张三 + 在 + 办公室。

| | |

<所在者> 所在 <所在>

さらに、次の例が示すように、事態の種類（述語）が存在せず、あるいは事態種類不明な語彙項目の集合では、個々の語彙項目の意味役割も不明である。事態成分を含まない語彙項目の集合は単なる語彙項目の集合で、「まとまった意味を表す」意味の単位、つまり文にはならない。

(24) ?? 张三 一把 李四。

?? 张三 李四。

?? 张三 一辆 跑车。

?? 张三 办公室。

このように、いわゆる「主語」と「目的語」は、述語成分が表す〈事態類型〉との意味関係によって定義される意味役割の情報を持っている故、事態を表す述語とは直接的な意味関係で結ばれている構成素で、直接構成素である。ちなみに、文を構成する意味成分のなかで、事態成分（述語）は主要成分であり、主語、目的語が担う意味成分は主要成分の事態に対して、従属の立場にある従属成分である。

4.2 下位構成素としての定語

他方、「定語」とは、次の各例が示すように、形式上、名詞成分の前に位置し、その名詞成分を「修飾、限定」する役割を果たす。

(25) [张三] 的 同学

[张三 新买] 的 跑车

(26) [一] 个 同学

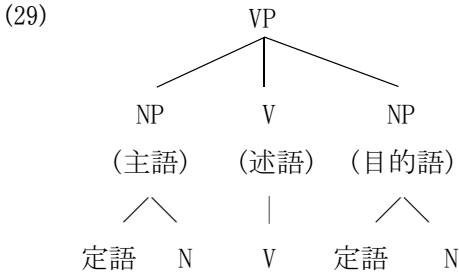
[一] 辆 跑车

- (27) [这] 个 同学
[那] 辆 跑车

「修飾」や「限定」とは、語彙項目自身が持つ辞書的（あるいは語彙的）意味ではなく、他の要素との相対的な意味関係、つまり後続の被修飾名詞との相対的な意味関係によって定義されるものである。このような意味において、主語や目的語が持つ「意味役割」と類似していて、一種の「意味役割」であるといえる。しかし、根本的に異なるのは、主語、目的語の意味役割は文の主要成分である述語として実現する〈事態〉との意味関係によって定義され、あるいは述語成分が担う事態成分との意味関係を示すものであるのに対して、「定語」の「修飾」、「限定」は一名詞句との意味関係を示すものである。文の主要成分である述語との間に直接的な意味関係は存在しない。従って、(24)～(27)が示すように、主語、目的語などと違って、たとえ述語成分が存在しないフレーズの集合のなかでも、修飾、限定する名詞成分との間の「修飾・限定」の機能には変わりはない。また、次の例が示すように、「定語」を含む名詞フレーズは文のなかで主語や目的語など、さまざまな統語成分を担うのに用いられる。これらのことは、定語が置かれる構造的階層とは、主語、目的語などの直接構成素が置かれる構造的階層と異なり、下位構成素であることを示している。

- (28) [张三 的 同学] 推了一把 李四。
李四 推了一把 [张三 的 同学]。

つまり、主語、目的語は、述語と並んで、統語成分を担う文の直接構成素であるのに対して、「定語」は主語や目的語などの直接構成素の下位構成素である。両者の構造的階層関係を示すと、次のようになる。



5. 状語と補語

5.1 直接構成素としての状語、補語

状語と補語は、次の例が示すように、直接構成素である主語、目的語と同様、何らかの意味役割の情報を持っている。(30) は状語、(31) は補語の例である。

(30) a. 张三 经常 推 李四。

<頻度>

b. 张三 往台上 推 李四。

<方向>

(31) a. 张三 推了 一把 李四。

<分量>

b. 张三 推 到院子里 一辆自行车。

<着点>

また、状語と補語の意味役割も主語、目的語と同様、述語として実現する<事態>との意味関係によって定義される。次の例が示すように、事態成分がなければ、状語も補語も、意味役割の認識が困難である。¹

(32) a. 张三 经常 李四。

< ? >

b. 张三 台上 李四。

< ? >

(33) a. 张三 一把 李四。

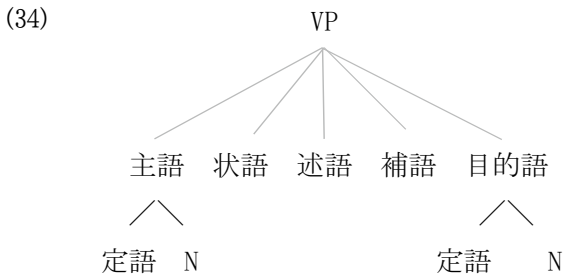
< ? >

b. 张三 院子里 一辆自行车。

< ? >

このように、状語、補語は主語、目的語と同様、それ自身の意味役割情報は直接構成素である述語との相対的意味関係によって定義される以上、分析と記述の首尾一貫性の観点から、その構造的階層についても、むしろ主語、目的語と同様、述語成分と並ぶ成分で、文の直接構成素であると考え方が合理的で、言語事実に合致する。

上記のような考え方に従えば、状語、補語を含む中国語の構成素構造表示(VP)は次のようになる。



5.2 再び「述語+目的語」構成素について

以上、補語と呼ばれる成分は述語、主語、目的語と並んで、文の直接構成素であることを見た。補語は直接構成素である以上、補語を挟んで生起する述語と目的語を同一の構成素単位と認めるには、例えば「同一の意義素単位」であるなど、相当有力な意味上の根拠がなければ困難であろう。現在のところ、このような有力な根拠は見当たらない。

6. おわりに

本論の主張は次のようにまとめられる。(1) 中国語では、状語、補語は述語、主語、目的語と並んで、文の直接構成素である。(2) 補語が文の直接構成素である以上、直接構成素である補語を挟んで配置される述語と目的語を同一の構成素と認めるには、いわゆる「普遍的句構造型」を絶対視する以外、客観的な理由は見当たらない。述語と目的語が同一の構成素を成すとする従来の考え方は、一部の「主要言語」、または「有力言語」とされる限られた言語の分析から得られた「仮説」であり、個別言語の記述にあたって、検証作業が必要である。残念ながら、現代中国語の事実からはこれに賛同する有力な根拠は見当たらず、むしろ逆の事実を示している。(3) いわゆる統語構造が階層構造を成していることは事実であるが、検証の結果、少なくとも中国語に関しては、述語、主語、目的語、状語、補語からなるVPと、定語とその中心語からなるNPの2層構造である。

本論はテーマの性格上、伝統的な「統語成分」、「統語構造」の概念を用いて論を進めてきた。統語成分には形式と意味（意味役割）という二つの側面があり、両者は1対多数の非対称性関係にあることは周知の事実である。このようなことから、「統語成分」や「統語構造」は事実上、表層の形式構造上の概念である。言語を言語話者が内的に持っている知識としてとらえ、こうした言語知識の解明を目指す立場からすれば、いわゆる「統語成分」は意味の側面と形式の側面があり、文には、「形式成分」から構成され、文の形式を規定する「形式構造」と、意味成分から構成され、文の意味を規定する「意味構造」があり、形式成分と意

味成分の結合によって得られるのが表層の「統語成分」であると考え。伝統的統語論では表層レベルにおけるこうした統語成分の連続を統語構造と呼んでいるに過ぎない。言語話者が内的に持っている言語知識の解明を目的として、文形成メカニズムの記述を目指す構文分析にとって、表層の統語成分を対象とする分析には限界があり、形式構造、意味構造、および形式成分と意味成分の対応関係に基づく両者結合のプロセスの説明を最終的目標としなければならないと考える。

【後記】本稿は査読の段階で、査読者よりいくつか的確で、貴重なご指摘を頂きました、記して感謝の意を表したい。

注

1. ただし、従属成分には事態の類型と連動して、事態成分と相補分布関係にあるものと、事態の類型とは関係せず、分布が自由なものがある。状語、補語に置かれる従属成分は相対的に分布が自由なものが多く、主語、目的語のように、事態の下位類型によって特定されるものは相対的に少ないのが事実である。

引用文献

- 北京大学中文系1993《現代漢語》商務印書館
- 柴谷方良・影山太郎・田守育啓1982『言語の構造』くろしお出版
- 長谷川信子1999『生成日本語学入門』大修館書店
- 何元建2007《生成言語学背景下的汉语语法及翻译研究》北京大学出版社
- 井上和子・原田かづ子・阿部泰明1999『生成言語学入門』大修館書店
- 林祥楣1991《現代漢語》語文出版社
- 武占坤1985《現代漢語》河北人民出版社
- 中村捷・金子義明・菊池朗1989『生成文法の基礎』研究社出版

内 容 简 介

以生成语法学为代表的现代语言理论的一个重要特点是追求人类语言的「普遍性特征」、进而构建人类语言的「普遍语法」。其中，X-标杠模式(X-bar Format)被认为是人类语言短语结构所共同遵循的模式。这个模式的特点是，首先，短语结构属于层次结构，并且都是二阶短语。其次，中心语(X)和补足语(WP)的结构关系较其他成分(如附加语ZP、标定语YP等)相对密切，构成同一个内部成分结构。同时，上述模式适用于任何语法范畴的短语，即，无论短语的语法范畴是动词性(VP)还是名词性(NP)或其他词性，都毫无例外地遵循该同一模式。(正因为如此，目前的短语结构模式取消了VP、NP、PP等标志，而采用唯一的X标志。)

观察具体语言事实可以看到，英语是模范地遵循该模式的典型语言。日语虽然有人指出动词短语中心语和补足语之间可以加入插入成分，因此很难说两者之间的关系较其他成分想对密切，但目前大多有关日语的描写都忽略这方面的事实，而是照搬该模式。

本文要指出的是，现代汉语属于上述普遍模式的一个「异端」。首先，现代汉语中谓语动词和宾语名词之间可以加入数量、归着点等补语成分，因此很难说「两者之间的关系相对密切，属于同一个结构成分」。同时，现代汉语动词短语中心语在前，名词短语中心语在后，也就是说，短语结构因语法范畴不同而不同，很难说「无论任何词性的短语都遵循同一个模式」。鉴于这样的事实，我们只能认为，除了「结构性」以及机构的「层次性」的特征之外，现代汉语的短语结构很难找到其他「普遍性特征」。